

JAF Grand Prix FUJI SPRINT CUP 2010

富士スピードウェイ

開催日:2010年11月12日(予選)／11月13, 14日(決勝)

天候:晴れ コースコンディション:ドライ 観客動員数:33000人(11月14日)

「第1レースで国本選手が2位！JAFグランプリポイントでも見事3位獲得！」



先月のもてぎ戦を最後にSUPER GTシリーズも終わり、年内最後の本格的なレースとなるJAF Grand Prix FUJI SPRINT CUP 2010。初開催となるこのレースは国内ツーリングカーレースの最高峰であるSUPER GTと国内トップフォーミュラであるFormula NIPPONが同時開催される特殊なレース。レース方法も特殊であり、22周のスプリントレース。土曜日に第1レース、日曜日に第2レースと2日間に渡って行われる。決勝では、それぞれのドライバーが1つのレースを走り切るというスプリントスタイル。

予選もそれぞれのドライバーが行う事となり、クルマこそ1台をシェアする形になるがGT初のワンマンのスプリントレースでありその楽しみも2倍。#74「COROLLA Axio apr GT」の井口選手は弊催されるFormula NIPPONとのダブルエントリーとなる為、スケジュール的にも体力的にも非常に厳しい内容。

オープニングラップ早々に戦線離脱をしたもてぎ戦、9月の集中豪雨により中止となった富士戦のリベンジの為に、得意の富士で優勝を飾るべく木曜日からサーキットへと到着。まずは金曜日から行われる予選へ向けてチームもドライバーも準備を始めた。

公式練習 11月12日(金)10:30~11:20

予選に向け唯一行われる練習走行時間帯。今回は他カテゴリーのスケジュールとの兼ね合いから練習走行は50分と短く、持ち込み状態の精度の高さが重要。Formula NIPPONとダブルヘッダーの井口選手の忙しさもあり、今回は国本選手が全てのセットアップを担当。その限られた時間の中、まずは基本となるベースセッティングを探るべく国本選手から走行を開始。春のレースで初優勝を飾った74号車にとって、富士スピードウェイは比較的得意なサーキットという事もあり足回りと空力を微調整する範囲だけでマシンセットは満足なレベルに到達。国本選手が出したセットに対しセッション終了間際に井口選手へとドライバー交代。代わった井口選手もマシンの状態、路面のコンディションを確認しマシン状況に満足し走行終了。順位的には22番と最後尾であったが、予選に向けたシミュレーションとデータ収集は完璧であり期待の高まる練習走行であった。

公式予選①14:05~14:25

公式予選②15:05~15:25

SUPER GT初となる1レース/1ドライバーによるスプリントレース。今回、土曜日の第1レースを担当するのは国本選手、日曜の第2レースを担当するのは井口選手。各決勝レースへ向け別々に行われる予選で、まず第1レースへ向けた予選1回目。午後になり気温も幾分低くなり路面温度も若干下がり始めた中、セッション開始と同時にコースインした国本選手はユーズドタイヤでマシンチェックの後ニュータイヤに履き替え入念に熱を入れ最終ラップにて、2番手のタイムを記録しピットイン。#74「COROLLA Axio apr GT」と富士スピードウェイの相性の良さをアピール。まずは幸先の良い予選1回目となった。

その後GT500クラスの1回目の予選を経て行われた予選2回目。こちらは日曜日の決勝レースを走る井口選手が担当。国本選手のアタックで良好なバランスが確認できている74号車だが、さすがにこの季節の富士は1回目の予選からわずか1時間経過しただけで気温・路温共に更に下がったコンディションになっていた。

まずは井口選手のアタックが開始。ホームストレートで大きくマシンを左右に振ってタイヤへと熱を入れて迎えたアタックラップ、攻める走りの井口選手はセクターベストを更新するが通常の予選と違い、どうしてもセクター終盤にトラフィックに捕まりなかなかクリアラップが取れず。その後2周にわたり渾身のアタックを見せるが、ライバル達よりも気候に左右されやすいマシン特性もあり、さすがにこの時間帯はグリップ的にも厳しく目標のフロントローのタイムには0.4秒足らず、惜しくも10位。しかしながら得意な富士でコンスタントな速さを見せつける予選となった。



第1レース(22Laps)11月13日(土)12:00

午後14時00分、スーパーGT第1レースのスタート時刻を迎えた。第1レース#74「COROLLA Axio apr GT」をドライブするのは国本選手。2番手からトップを狙う展開。SUPER GTでは初となるスタンディングスタートに向け、フォーメーションラップがスタート。各車グリッドに整列しシグナルタワーのシグナルが一つずつ点灯！シグナルオフで全車一斉にスタートし、国本選手も抜群のスタートを見せ無事に1コーナーへ！後方では若干の接触等により順位の変動はあったもののTOP3は予選順位のまま1周目のストレート通過。2位を走る国本選手は気温の低い中、前車との距離を微妙に詰めてつコンスタントに周回を重ね、なんと3周目にはトップを捕らえ1番に浮上。数周にわたりトップを独走かに見えたが、世界に類を見ない富士スピードウェイの1.5kmの直線。虎視眈々とFIA勢のアストンマーチン、フェラーリー、ポルシェがひたひたと背後に迫る。



最高速が10km/hほど差があるFIA勢とのバトルはあっけなく、10周目には先ずは#66にストレートで抜かれる。その後も、攻めの姿勢を緩めない国本選手は、チャンスをうかがい#66を最終コーナーでロックオンするが、再びストレートで離される展開。その攻防は数周にわたり続くが、そのトップ争いの間に伏兵表れる。スタートで大きく順位を落とした11号車フェラーリーが気づけば背後に。このフェラーリーもFIA勢。2周にわたり順位を守ったもののやはりあっさりストレートでかわされ3位にドロップ。国本選手はコーナーで出来る限り詰め抜きにかかるが、ストレートで放される我慢の走行を続ける。ついにその攻略はできず3番手で22週のチェッカーを受けた。その後他車のペナルティーの降格により、国本選手は年内最後の「COROLLA Axio apr GT」でのレースを2位表彰台で締めくくることができた。

第2レース(22Laps)11月14日(日)14:00スタート

Formula Nipponの第2レースが終わり薄曇りの天候だが風も無く昨日よりは過ごしやすい天候の中、午後2時、SUPER GT第2レースのスタート時刻を迎えた。日曜日という事もあり、朝早くから多くの来場者で賑う富士スピードウェイ。第1レースで2番手と好調だった#74「COROLLA Axio apr COROLLA」は井口選手にて予選10番手からのスタート。



予選ではクリアラップが取れず満足にアタックができなかった事から、スタート位置はFIA勢がひしめくグリッド。その事から我慢のレースを行い随所に現れるチャンスを拾うレース展開を目標とした。FIA勢のタイヤが苦しくなって来た所で追い上げる作戦の井口選手は慌てる事なく安定したタイムで走行を続け徐々に前車との距離を詰める作戦。

スタンディングスタートもバッチリ決まりポジションを1つ上げ9番手に上がり、フロントローの2台がフライングスタートで脱落した為、5周時点では7番手まで浮上。その後タイヤに十分熱も入り、井口選手のペースも徐々に上がりポジションUPを狙う。FIA勢のストレートスピードを抑える為にも、コーナーリング区間で毎周プッシュをかける井口選手。ところがそのプッシュが仇になり徐々に井口選手のタイヤも厳しくなった。他車がペースを落とし始めると同時にプッシュするはずであったが、#74「COROLLA Axio apr GT」も同じくペースダウン。その後大きな変動も無く、前との距離は縮まらず、7位でチェッカーを受けた。



井口卓人選手

「GTとFN同時開催で、体力的にもすごくタフな週末でした。予選10番手でFIA勢のストレートが早い中、出来る限り頑張りましたが苦しい部分もありました。土曜日のレースで雄資(国本選手)が2位になってくれて、車のパフォーマンスもとても高い事もわかり、チームにとっては良い週末になったのではないかと思います。1年間、応援ありがとうございました。」

国本雄資選手

「予選でうまく2位を獲得することができ(スタンディング)スタートも慣れてたので上手く決める事ができました。途中までトップを走る事もできたので自分としては良いレースが出来たと思います。FIA勢のストレートが早くて結果的に順位を落としてしまいましたが、良いバトルも出来、満足のいく楽しいレースでした。2年間カローラに乗って、ドライバーとしても人間としても色々なことが勉強でき、成長できたと思います。応援して下さい皆様ありがとうございました。」

apr代表 金曾裕人

「今期最後のレースで国本選手が2位表彰台。そして総合でも3位表彰台と有終の美で今期を終わらせる事ができた。やはり#74「COROLLA Axio apr GT」は富士スピードウェイとの相性が良かったです。今となれば9月の富士が中止によりレースができなかった事が非常に悔やまれる。このレースが開催されていればタイトルは獲れたのかなと強く思う内容でした。カローラを投入して2年、マシンは完全に上位を狙えるポテンシャルとなりドライバーの両名もシリーズチャンピオンを狙える技能を身につけた。来期に関してはまだまだ未確定要素が多いですが、間違いなくカローラが台風の目に成ることは間違いない。今期も暖かいご声援を皆様から頂き、大きくTEAMも成長できましたこと あつく御礼申し上げます。」

本リリースに関するお問合せ



株式会社エー・ピー・アール

〒243-0021 神奈川県厚木市岡田3111

TEL 046-226-5276 046-228-7636

(担当: 赤城 akagi@apr-jp.com)

